

令和5年度港区指定文化財の指定に係る諮問について

協議内容

港区文化財保護条例第39条の規定に基づき、港区文化財保護審議会に対し、以下のとおり諮問します。

1 指定文化財候補

- (1) 種 別 有形文化財 古文書  
名 称 中津川家文書 193点  
所 有 者 学校法人慶應義塾  
所在の場所 港区三田二丁目15番45号
- (2) 種 別 有形文化財 古文書  
名 称 兼房町沽券図 1点  
所 有 者 港区教育委員会  
所在の場所 港区白金台四丁目6番2号
- (3) 種 別 有形文化財 古文書  
名 称 飯倉町沽券図 1点  
所 有 者 港区教育委員会  
所在の場所 港区白金台四丁目6番2号

※詳細は、別紙記載のとおり

2 今後のスケジュール（予定）

- 令和5年7月24日 教育委員会協議「港区指定文化財の指定に係る諮問  
について」
- 8月 上旬 文化財保護審議会諮問
- 9月 答申
- 10月11日 教育委員会審議「港区指定文化財の指定について」  
港区指定文化財の指定の告示
- 10月 下旬 区民文教常任委員会報告

## 有形文化財 古文書

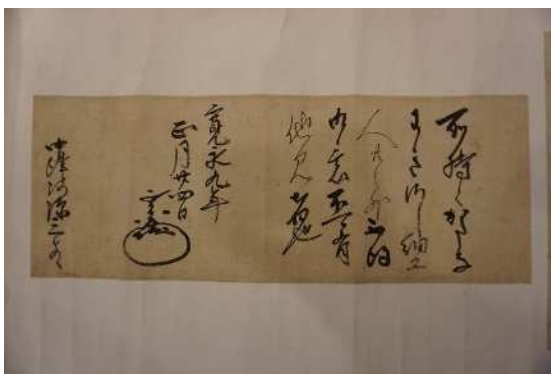
## 中津川家文書 193点

中津川家文書は、仙台藩伊達家の家臣である中津川家に伝来した古文書です。平成18(2006)年3月に慶應義塾の卒業生から同校に寄贈されました。内容は、戦国時代から幕末期に至るまでの伊達家当主の書状、中津川家の家系図や家譜、剣術・砲術・柔術の免許目録などの武芸関係、生花など学芸関係の文書となっています。形態は、卷子や縦帳、横帳、折本などから、一紙のものまで様々です。

主君の伊達家は、戦国時代には奥羽地方の戦国大名、江戸時代には仙台藩62万石の大名となり、明治維新を迎えます。中津川家は、この間300年以上に渡って伊達家に仕えました。江戸時代には平士の家格で、陸奥国栗原郡(現在の宮城県栗原市)などに約10~30貫文(約100~300石)の領地を与えられていました。

上記のうち、伊達家当主から中津川家へ発給された書状は、江戸時代に伊達家が編さんした歴史書である『伊達正統世次考』や『伊達治家記録』に史料として活用されています。また、安政の大地震によって仙台藩江戸屋敷が破損したことや江戸市中が混乱したことを記した文書も含まれています。

戦国時代から幕末期に至るまでの間、大名家に仕えた武家に伝わる文書群として、様々な情報が記されている貴重な資料です。



伊達政宗書状(所持之刀・脇差に付)



(砲術相伝絵巻)

有形文化財 古文書

## 兼房町沽券図 1点

沽券図は町の屋敷ごとに間口・奥行・坪数・家屋敷の金額（沽券金）・地主名・家守名を記した絵図です。17世紀以降、江戸の町々では家屋敷の売買が活発化したことから、幕府は江戸市中の沽券金の把握のため、宝永7（1710）年と寛保3（1743）年に、町奉行より町名主に沽券図の提出を命じました。

本図は、宝永7年の命令を受けて、同年に作成された兼房町の沽券図です。縦30cm、横89cm。沽券図に描かれている兼房町は現在の新橋一丁目辺りにあった頃、寛政6（1794）年の類焼後に周辺の7か町と共に近隣地に移転する前のものです。沽券図の一部は欠けていますが、各屋敷の地主・家守の印鑑があり、町奉行へ提出した正本に近い控えと考えられます。6筆の屋敷が描かれており、そのうち1筆の持ち主は兼房町名主です。これは、文政10（1827）年に兼房町名主が町奉行所へ提出した「地誌御調書上」（「町方書上」）で報告している、代々の兼房町名主が所持した屋敷と間口・奥行が一致しています。

現存する沽券図は数十点しかなく、そのうち宝永7～正徳元（1711）年のものにしてはごくわずかです。本図は江戸時代中期の兼房町について、敷地割や地価などの社会状況をはじめとした町の情報を現在に伝える貴重な資料です。



有形文化財 古文書

## 飯倉町沽券図 1点

沽券図は町の屋敷ごとに間口・奥行・坪数・家屋敷の金額（沽券金）・地主名・家守名を記した絵図です。17世紀以降、江戸の町々では家屋敷の売買が活発化したことから、幕府は江戸市中の沽券金の把握のため、宝永7（1710）年と寛保3（1743）年に、町奉行より町名主に沽券図の提出を命じました。

本図は、寛保3年の命令を受けて、翌年の延享元（1744）年3月に作成された飯倉町の沽券図です。縦248.8cm、横305.8cm。西側を上にして、飯倉町のうち北側の一、二、三、六丁目、現在の麻布台一丁目と二丁目辺りが描かれています。地主・家守や名主などの印鑑がない写、もしくは控えですが、記述内容は当時のものです。書き上げられた屋敷の数は84筆にのぼり、地主の中には飯倉町名主や町医、大名が抱えた画師などの名もあります。

現存する沽券図は数十点しかありません。本図は江戸時代中期の飯倉町について、敷地割や地価などの社会状況をはじめとした町の情報を現在に伝える貴重な資料です。

